

わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い
ミュージアム都留からのお知らせ

収蔵資料展を開催します

会 期 3月20日(土)～5月30日(日)

ミュージアム都留の収蔵品より、屏風絵などの大作を中心とした日本画を展示します。

【展示資料紹介】

近藤乾年(本名 近藤大江)は、明治26年(1893)画家近藤東来(とうらい)の長男として大阪市に生まれました。上京し、寺崎広業に学びましたが、一時京都に移り、大正7年(1918)京都市立絵画専門学校を卒業しました。その後、東京に戻り、広業の死後は平福百穂に師事しました。



「四季花鳥図屏風」 近藤乾年 作

(1916)第10回文展(文部省展覧会)に「曇り日」が初入選しました。それか

ら、文展・帝展(帝国美術院展覧会・改組帝展・新文展と、昭和12年(1937)まで官展(政府主催の美術展覧会)を中心に作品を発表し、昭和13年(1938)川崎小虎らと日本画院を結成しました。昭和19年(1944)山梨県に移住し、昭和37年(1962)甲府市の自宅に愛宕山画塾を設けました。晩年は仏画や墨絵をよく描き、昭和39年(1964)から山梨学院大学教授を務め、昭和59年(1984)にその生涯を閉じました。

開館時間 午前9時～午後5時
観覧料 一般 300円(210円)

高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)

※()内は20名以上の団体料金です。

休館日 毎週月曜日、第3火曜日、

祝日の翌日

問合せ ミュージアム都留

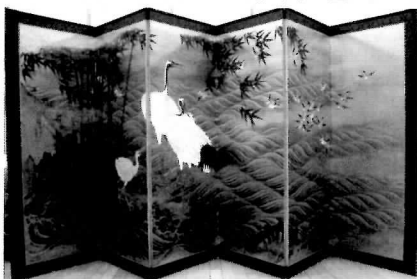
☎(45)8008

米山朴庵(本名 米山登)は、明治元年(1864)9月29日、境村(現東桂)の天野家に生まれました。画号は朴庵、停雲閣、溪素軒、六石堂。8歳のときに米山喜七の養子となり、帝室技芸員に選ばれた日本画家・滝和亭の門に入り日本画を学びました。師・和亭とともに、千葉県の野田醤油醸造業(現キッコーマン株式会社)の茂木家に身を寄せて親交を深めました。また

谷村の小池家にも出入りし、作品を残しています。卓越した技術を持ち、病床の師から作品の完成を託されるほどでありましたが、画壇における勢力争いなどを嫌い、展覧会へは一度も出品しませんでした。昭和3年(1928)、東京若宮町の自宅で生涯を閉じました。



「花鳥図屏風」 米山朴庵 作



※明治23年(1890)から終戦直後まで、宮内省が運営していた美術家・工芸作家の顕彰制度で、文化勲章や重要無形文化財などの制度のもととなりました。

増田誠美術館企画展

『季節の情景―冬から初夏へ』

会 期 3月6日(土)～6月13日(日)
会 場 増田誠美術館(ふるとと会館2階)
開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日

【作品紹介】

雪の降り積もる家々の屋根、灰色の空と煙突からたなびく煙、アトリエの窓からの情景を描いた作品。



「雪の巴里」

情報未来館だより

エクスセル入門

対象者 市内在住18歳以上でキーボード・マウスの使える方

日 程 3月7日(日)

時 間 午前9時30分～正午
午後1時～4時30分

内 容 入力、表の作成、書式設定、簡単な計算などを行います。

定員 15名

参加費 1,000円(テキスト代込み)

開館時間 午前9時30分～午後5時15分

休館日 3月1日(月)、8日(月)、15日(月)、

21日(日)、22日(休)、29日(月)、31日(水)

申込・問合せ

情報未来館 ☎(43)1452